

First images of collisions at 13 TeV

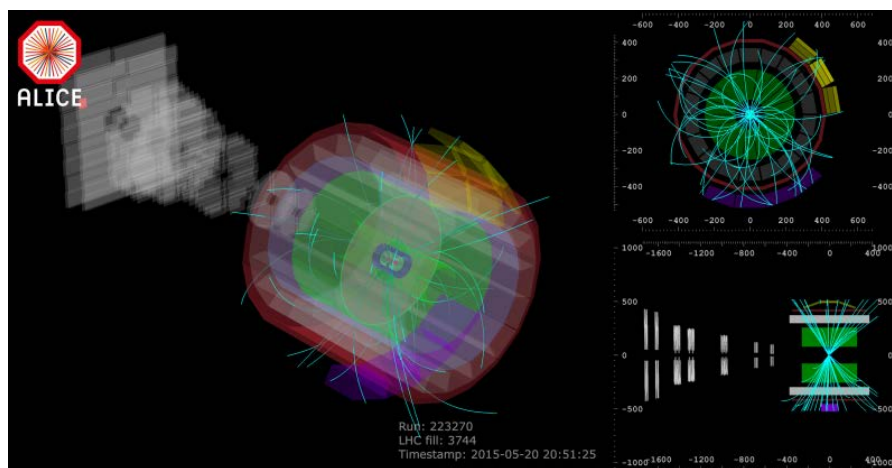
13TeVでの衝突による初めての事象

2015年5月21日、ジュネーブ。昨夜、LHCにて、これまでの記録を破る13TeVでの陽子陽子衝突が初めて行われた。この試験的な陽子陽子衝突は、ビームの周りにただよっている粒子から加速器と検出器を守るためのシステムを構築するためのものである。

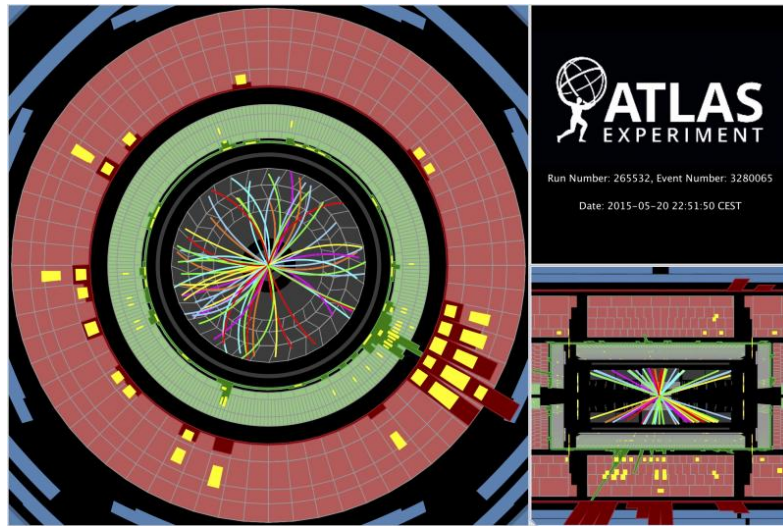
この一連の作業のなかで鍵を握るのはコリメータの設置である。ビームの周りをただよう粒子を吸収するためのコリメータの調整が、ビームが衝突している間になされた。この設置により、加速器グループは、LHCの電磁石と検出器を十二分に保護するために必要なデータを得ることができるだろう。

今日も試験は続く。LHCでのビーム衝突は数時間続く予定である。LHCの運転グループは、ビームの品質を注視し、コリメータの最適化を図る。

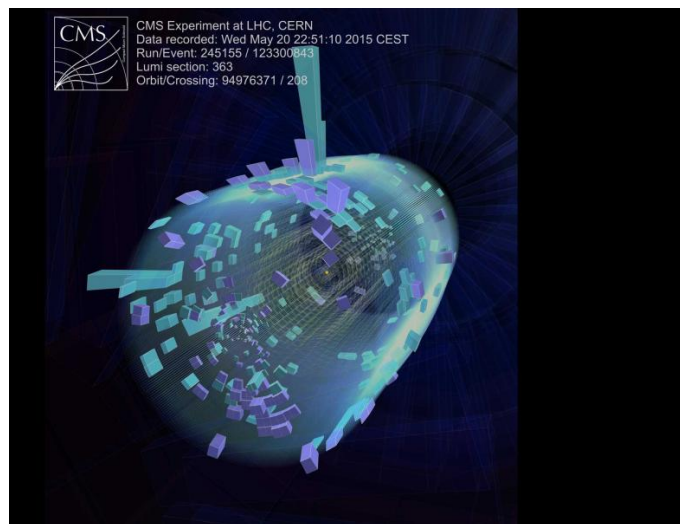
これは、ALICE, ATLAS, CMS, そしてLHCb各検出器を運転している実験グループが実験を完全にスタートするために必要な幾つかの手続きの中で重要な位置を占める。データ収集、およびLHCのRun2の開始は6月初旬に予定されている。



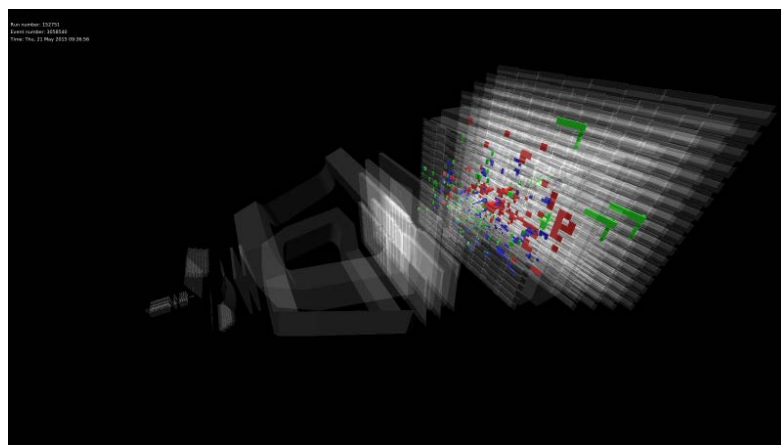
13TeVでの陽子陽子衝突により生成された粒子がALICEで捉えられた様子（画像提供：ALICE）



13TeVでの陽子陽子衝突により生成された粒子がATLASで捉えられた様子（画像提供：ATLAS）



13TeVでの陽子陽子衝突により生成された粒子がCMSで捉えられた様子（画像提供：CMS）



13TeVでの陽子陽子衝突により生成された粒子がLHCbで捉えられた様子（画像提供：LHCb）